



Cisco IP Conference Phone の機能とセットアップ

- [電話機の機能および設定の概要](#) (2 ページ)
- [Cisco IP Phone ユーザのサポート](#) (2 ページ)
- [Cisco IP Phone のテレフォニー機能](#) (3 ページ)
- [機能ボタンとソフトキー](#) (13 ページ)
- [回線キーの短縮ダイヤルの設定](#) (13 ページ)
- [\[設定ユーティリティ \(Configuration Utility\)\] ページでの短縮ダイヤルの設定](#) (15 ページ)
- [短縮ダイヤル](#) (15 ページ)
- [英数字ダイヤリングの設定](#) (15 ページ)
- [ページンググループ \(マルチキャスト ページング\) の設定](#) (16 ページ)
- [プログラム可能なソフトキーの設定](#) (18 ページ)
- [プロビジョニング権限の設定](#) (25 ページ)
- [電話機のホテリングの有効化](#) (27 ページ)
- [ユーザパスワードの設定](#) (27 ページ)
- [エラー レポート ツールのログのダウンロード](#) (28 ページ)
- [PRT アップロードの設定](#) (28 ページ)
- [自動的にページを承認するための電話機の設定](#) (30 ページ)
- [サーバに設定済みのページング](#) (31 ページ)
- [TR-069 を使用した電話機の管理](#) (31 ページ)
- [TR-069 ステータスの表示](#) (31 ページ)
- [電話機の Web ページから電話機のすべての問題をレポート](#) (32 ページ)
- [Web UI ボタンを使用した電話機の初期設定へのリセット](#) (33 ページ)
- [セキュアな内線のセットアップ](#) (33 ページ)
- [緊急コール](#) (34 ページ)
- [SIP トランスポートの設定](#) (36 ページ)
- [電話への非プロキシ SIP メッセージのブロック](#) (37 ページ)
- [プライバシー ヘッダーの設定](#) (38 ページ)

- P-Early-Meida サポートを有効にする (39 ページ)
- Peer Firmware Sharing (39 ページ)
- [プロファイル認証 (Profile Authentication)] (41 ページ)
- プログラム可能なソフトキー [無視 (Ignore)]を追加して着信コールをサイレント状態にする (42 ページ)
- BroadWorks Anywhere を有効にする (43 ページ)
- 発信者 ID ブロック機能の電話機と BroadWorks XSI サーバとの同期 (43 ページ)
- 回線の BroadWorks XSI 通話履歴の表示の有効化 (44 ページ)
- DND とコール転送ステータスの同期 (45 ページ)
- パケットのキャプチャ (48 ページ)
- Web UI ボタンを使用した電話機の初期設定へのリセット (48 ページ)

電話機の機能および設定の概要

Cisco IP Phone をネットワークに設置し、ネットワークの設定値を設定して、IP Phone をサードパーティ コール制御システムに追加した後は、サードパーティ コール制御システムを使用して、テレフォニー機能を設定する必要があります。必要に応じて、電話テンプレートの修正、サービスのセットアップ、ユーザの割り当ても行います。

サードパーティ コール制御システムの設定ユーティリティから Cisco IP Phone の追加設定を修正することができます。この Web ベースのアプリケーションを使用して、電話機登録基準とコーリングサーチスペースのセットアップ、社内ディレクトリとサービスの設定、電話ボタンテンプレートの修正、その他のタスクを行うことができます。

Cisco IP Phone ユーザのサポート

システム管理者は、多くの場合、ネットワーク内や社内の Cisco IP Phone ユーザの主な情報源になります。最新の詳細な情報をエンドユーザに提供する必要があります。

Cisco IP Phone の機能 (サービスおよびボイス メッセージシステムのオプションなど) を正常に使用するには、ユーザはシステム管理者やシステム管理者のネットワークチームから情報を入手する必要があります。また、システム管理者に支援を依頼できる環境が必要です。支援を求める際の連絡先の担当者名前、およびそれらの担当者に連絡する手順をユーザに提供しておく必要があります。

エンドユーザに Cisco IP Phone に関する重要な情報を提供するために、社内のサポートサイトに Web ページを作成することをお勧めします。

このサイトには、次のタイプの情報を含めるように考慮してください。

- サポートされているすべての Cisco IP Phone モデルのユーザ ガイド
- Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルへのアクセス方法について
- サポートされている機能のリスト

- ボイスメール システムのユーザ ガイドまたはクイック リファレンス

Cisco IP Phone のテレフォニー機能

Cisco IP Phone をサードパーティ コール制御システムに追加した後、電話機に機能を追加できます。次の表に、サポートされているテレフォニー機能のリストを示します。これらの多くは、サードパーティ コール制御システムを使用して設定できます。



(注) サードパーティコール制御システムには、各種のテレフォニー機能を設定するためのサービスパラメータもいくつかあります。

機能	説明と詳細情報
電話機での AES 256 暗号化サポート	TLS 1.2 および新しい暗号をサポートすることで、セキュリティが向上します。
英数字ダイヤリング	英数字文字を使用してコールを発信することができます。英数字ダイヤリングに使用できる文字は、a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9、-、_、.、および + です。
すべてのコール ピックアップ	コールがどのように電話機にルーティングされたかに関係なく、ユーザはコール ピックアップ グループ内の任意の回線でコールをピックアップできます。
処理されたダイレクト コールパーク	ユーザは、ダイレクト パーク機能を使用して、1つのボタンを押すだけでコールをパークすることができます。管理者は、ビジーランプフィールド (BLF) の [処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park)] ボタンを設定する必要があります。アクティブ コールに対してアイドルな BLF の [処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park)] ボタンを押すと、アクティブ コールは、[処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park)] ボタンに関連付けられたダイレクトパーク スロットにパークされます。
音声設定	電話機に接続されている電話機用スピーカー、ハンドセット、およびヘッドセットのオーディオ設定を指定します。
自動応答	呼出音を 1 ~ 2 回鳴らした後に、着信コールを自動的に接続します。 自動応答は、スピーカーフォンと連動します。
ビジー ランプ フィールド (BLF)	電話番号のコール状態をモニタすることができます。
ビジー ランプ フィールド (BLF) ピックアップ	BLF によってモニタされる電話番号への着信コールをピックアップすることができます。
折返し	通話の相手が話し中や通話不能だった場合、その相手が通話可能になったときに、ユーザの電話機に音声による通知と画面表示による通知が送信されます。

機能	説明と詳細情報
コール表示の制限	発信回線および接続回線について表示する情報を、コールに関係する通話相手に応じて決定します。RPIDおよびPAID 発信者 ID の処理がサポートされます。
コール転送	ユーザは、着信コールを別の番号にリダイレクトできます。コール転送オプションには、不在転送、話中転送、無応答時転送があります。
不在転送の接続先の無効化	管理者は、すべてのコールの転送（CFA）の接続先が CFA の転送元にコールを発信する場合には CFA を無効にすることができます。この機能により、CFA の接続先は、重要なコールがある場合に CFA の転送元に到達できるようになります。この上書きは、CFA の宛先電話番号が内部と外部のどちらであっても機能します。
コールの転送通知	転送されたコールを受信したときに表示される情報を設定できます。
共有回線のコール履歴	電話機の通話履歴に共有回線のアクティビティを表示できるようにします。この機能の目的は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 共有回線の不在着信をログに記録する。 共有回線のすべての応答済み着信と発信履歴をログに記録する。
コールパーク	ユーザがコールをパーク（一時的に保存）し、別の電話機を使用してそのコールに応答できます。
コールピックアップ	ユーザは、自分のピックアップグループに属する別の電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。 電話機のプライマリ回線に、音声によるアラートと画面表示によるアラートを設定できます。このアラートによって、ピックアップグループ内でコールの呼び出しがあることが通知されます。
コール待機	コールの最中に別の着信コールの呼出音が鳴っていることを通知し、ユーザが応答できるようにします。また、着信コールの情報を電話スクリーンに表示します。
発信者 ID	電話番号、名前、その他の説明テキストなど、発信者の識別情報を電話スクリーンに表示します。
発信者 ID ブロック	発信者 ID が有効になっている電話機から、ユーザが自分の電話番号または名前をブロックできるようにします。
発信側正規化	発信側の正規化では、ダイヤル可能な電話番号として電話番号がユーザに示されます。エスケープコードが番号に付加されるため、ユーザは簡単に発信者に再度接続できます。ダイヤル可能な番号は通話履歴に保存され、個人アドレス帳に保存できます。

機能	説明と詳細情報
Cisco Extension Mobility	共有 Cisco IP Phone から自分の Cisco IP Phone の設定（ライン アピアランス、サービス、短縮ダイヤルなど）に一時的にアクセスできます。それには、共有 Cisco IP Phone の Cisco Extension Mobility サービスにログインする際に、自分の電話機の Cisco Extension Mobility にログインします。 Cisco Extension Mobility は、社内の複数の場所でユーザが業務を行う場合や、作業場を同僚と共有する場合に便利です。
Cisco Extension Mobility Cross Cluster (EMCC)	特定のクラスターで設定されたユーザが、別のクラスターにある Cisco IP Phone にログインできるようにします。ユーザはホームクラスターから、訪問先クラスターにある Cisco IP Phone にログインします。 (注) EMCC を設定する前に、Cisco IP Phone で Cisco Extension Mobility を設定してください。
Cisco Unified Video Advantage (CUVA)	Cisco IP Phone、パーソナル コンピュータ、および外部のビデオ カメラを使用することにより、ユーザがビデオ コールを発信できるようにします。 (注) [電話の設定 (Phone Configuration)] の [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] で、ビデオ機能のパラメータを設定します。 Cisco Unified Video Advantage のマニュアルを参照してください。
Cisco WebDialer	Web およびデスクトップアプリケーションから電話をかけることができます。
従来の呼出音	ナローバンドおよびワイドバンドの着信音をサポートします。この機能により、他の Cisco IP Phone でも同じ着信音を使用できるようになります。
クライアント識別コード (CMC)	コールが特定のクライアントに関連するように指定できます。
会議	ユーザは、各参加者を個別に呼び出して、複数の通話相手と同時に話すことができます。 標準 (アドホック) 会議では、開催者以外でも参加者を追加または削除できます。また、どの会議参加者でも同じ回線上の 2 つの標準会議を結合できます。 (注) ユーザに対し、これらの機能がアクティブであるかどうかを必ず通知してください。
設定可能な RTP/sRTP ポート範囲	Real-Time Transport Protocol (RTP) と secure Real-Time Transport Protocol (sRTP) に設定可能なポート範囲 (2048~65535) を提供します。 デフォルトの RTP および sRTP のポート範囲は 16384~16538 です。 SIP プロファイルで RTP および sRTP のポート範囲を設定します。

機能	説明と詳細情報
CTI アプリケーション	Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定して、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。
デバイスから呼び出された録音	エンドユーザがソフトキーを使用して電話コールを録音できる機能を提供します。 また、管理者はCTIユーザインターフェイスを使用して電話コールの録音を継続できます。
ダイレクト コール パーク	ユーザが、使用可能なダイレクトコールパーク番号をダイヤルまたは短縮ダイヤルし、その番号にアクティブなコールを転送できる機能です。コールパーク BLF ボタンは、ダイレクト コール パーク番号が使用中かどうかを表示するとともに、ダイレクト コール パーク番号への短縮ダイヤルアクセスにも使用できます。 (注) ダイレクト コール パーク機能を実装する場合は、[パーク (Park)] ソフトキーを設定しないでください。これは、ユーザが2つのコールパーク機能を混同するのを防ぐためです。
ダイレクト コール ピックアップ	ユーザは、GPickUp ソフトキーを押して、呼び出しているデバイスの電話番号を入力し、DN で呼び出している電話に直接応答できます。
即転送	ユーザは、呼び出し中のコール、接続されたコール、または保留中のコールを、ボイスメッセージシステムに直接転送できます。コールを転送した場合、その回線は新しいコールの発信または受信に使用できるようになります。
サイレント (DND)	DND をオンにすると、コールが呼び出し状態になっても呼出音が鳴らなくなります。またあらゆる種類の表示や音による通知も、一切行われません。
非選択回線キーの DND およびコール転送通知	DND およびコール転送アイコンを回線キーラベルの隣に表示します。回線キーは機能キー同期とともに有効にする必要があります。また、回線キーは DND またはコール転送とともに有効にする必要があります。
緊急コール	ユーザが緊急通報をできるようにします。緊急サービスは、電話機の位置とコールバック番号を受信し、緊急通報が予期せず切断されたときに使用します。
EnergyWise	省エネのために、あらかじめ決められた時刻に IP Phone をスリープ (電源オフ) および復帰 (電源オン) させることができます。
セキュアな Extension Mobility Cross Cluster (EMCC) の機能強化	ネットワークとセキュリティの設定がログイン電話で保存されるため、セキュアな Extension Mobility Cross Cluster (EMCC) 機能が強化されます。これにより、セキュリティポリシーが保持され、ネットワーク帯域幅が維持されて、訪問先クラスタ (VC) 内のネットワーク障害が回避されます。

機能	説明と詳細情報
エクステンション モビリティのサイズセーフと機能セーフ	機能セーフを使用すると、電話機モデルでサポートされるのと同じ数の回線ボタンがある任意の電話ボタンテンプレートを電話機で使用できます。 サイズセーフを使用すると、システムで設定されている任意の電話ボタンテンプレートを電話機で使用できます。
Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード)	特定のユーザが発信できるコールのタイプを制御します。
グループ コール ピックアップ	ユーザが、別のグループの電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに応答することができます。
保留状態	共有回線を持つ電話機では、ローカル回線とリモート回線のいずれがコールを保留したのかを区別できます。
保留または復帰	ユーザは、接続されたコールをアクティブな状態から保留状態に移行できます。 <ul style="list-style-type: none"> 保留音を使用しない限り、設定は必要ありません。この表の「保留音」を参照してください。 この表の「保留復帰」を参照してください。
HTTP ダウンロード	HTTP をデフォルトで使用することで、電話機へのファイルのダウンロードプロセスが向上します。HTTP ダウンロードが失敗した場合、電話機は TFTP ダウンロードの使用に戻ります。
電話サービス用 HTTPS	HTTPS を使用した通信を要求することで、セキュリティが向上します。 (注) Web が HTTPS モードの場合、電話機は HTTPS サーバになります。
発信者名と番号の表示の改善	発信者名と番号の表示が改善されています。発信者名がわかっている場合、発信者番号が「不明」ではなく表示されます。
IPv6 のサポート	Cisco IP Phone での拡張 IP アドレッシングをサポートします。IPv6 のサポートは、スタンドアロンまたはデュアルスタック コンフィギュレーションで提供されます。デュアルスタック モードでは、内容にかかわらず、電話機は IPv4 および IPv6 を使用して同時に通信できます。
ジッタ バッファ	ジッターバッファ機能は、オーディオストリームとビデオストリームの両方について 10 ミリ秒 (ms) ~ 1000 ms のジッターを処理します。
複数ライン同時通話	ユーザが、複数の電話回線上にある複数のコールを、1つの会議コールに結合できるようになります。 一部の JTAPI/TAPI アプリケーションでは、Cisco IP Phone の参加および直接転送機能と互換性がないため、参加および直接転送ポリシーを設定して、同一回線上や、場合によっては複数の回線をまたいだ参加と直接転送を無効にする必要があります。

機能	説明と詳細情報
サンカ	ユーザが、同一電話回線上にある 2 つのコールを、1 つの会議コールとして接続したうえで、そのコールに留まることができます。
回線表示の機能拡張	回線表示が改善されて、必要のない場合に中央境界線が除去されます。この機能は Cisco IP Phone 7841 だけに該当します。
ハント グループからのログアウト	ユーザは、コールを受けることができない場合に、ハントグループからログアウトし、一時的にユーザの電話機で呼出音が鳴らないようにすることができます。ハントグループからログアウトしても、ハントグループ以外のコールでは、引き続き電話機で呼出音が鳴ります。
迷惑呼 ID (MCID)	ユーザが、不審なコールを受信したことをシステム管理者に通知できる機能です。
Meet-Me 会議	ユーザがミートミー会議を開始し、参加ユーザは予定の時刻に、あらかじめ決められた番号にコールをかけます。
メッセージ待機	メッセージ待機のオンおよびオフのインジケータに対する電話番号を定義します。直接接続型のボイスメッセージシステムでは、指定された電話番号を使用して、特定の Cisco IP Phone のメッセージ待機インジケータを設定したりクリアしたりします。
メッセージ待機インジケータ	メッセージがあると、電話画面にメッセージが表示されます。電話機にもメッセージ待機インジケータが付いています。
[最小呼出音量 (Minimum Ring Volume)]	IP Phone の最小呼び出し音量レベルを設定します。
不在履歴のログ	ユーザが、特定のラインアピランスで不在履歴を不在履歴ディレクトリに記録するかどうかを指定できるようにします。
モバイル コネクト	ユーザは、1 つの電話番号を使用してビジネスコールを管理したり、デスクトップ電話機および携帯電話などのリモートデバイスで、進行中のコールをピックアップしたりすることができます。また、電話番号や時刻に応じて、発信者グループを制限できます。
モバイル ボイス アクセス	モバイル コネクト機能が拡張され、ユーザは自動音声応答 (IVR) システムにアクセスして、携帯電話などのリモートデバイスからコールを発信できるようになります。

機能	説明と詳細情報
モニタリングと録音	<p>スーパーバイザは、アクティブコールのサイレントモニタリングを実行できます。スーパーバイザの音声はコールのどちらの側にも聞こえません。コールがモニタされている場合、コール中にモニタリング音声アラートトーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティステータスが Cisco IP Phone に錠前アイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、モニタリングされていることを示す音声アラートトーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>(注) アクティブコールがモニタまたは録音されている場合、ユーザはインターコムコールを受信または発信できますが、インターコムコールを発信するとアクティブコールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p>
マルチキャスト ページング	<p>ユーザは一部の電話機またはすべての電話機をページングできます。グループページの開始時に電話機でアクティブな通話が行われると、着信ページは無視されます。</p>
ライン アピアランス 1 つあたりのコール数	<p>各回線は複数のコールに対応できます。デフォルトで、電話機は 1 回線あたり 2 つのアクティブな通話をサポートし、最大で 1 回線あたり 10 個のアクティブな通話をサポートします。ある時点では 1 コールだけが接続でき、他のコールは自動的に保留になります。</p> <p>システムでは、最大コール/ビジー トリガーを 10/6 以下で設定できます。10/6 を超える設定は公式にはサポートされていません。</p>
保留音	<p>発信者が保留状態になっている間、音楽を再生します。</p>
ミュート	<p>電話機のマイクをミュートします。</p>
アラート名なし	<p>元の発信者の電話番号を表示することで、エンドユーザが転送されたコールを簡単に識別できるようにします。コールはアラートコールとして表示され、その後には発信者の電話番号が表示されます。</p>
オンフック ダイヤル	<p>ユーザは、オフフックにすることなく、番号をダイヤルできます。次に、ハンドセットを持ち上げるか、[ダイヤル (Dial)] を押します。</p>
他グループ コール ピックアップ	<p>ユーザは、ユーザのグループに関連付けられている別のグループの電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールに応答できます。</p>

機能	説明と詳細情報
短縮ダイヤルの一時停止	短縮ダイヤル機能を設定すると、手動による操作をせずに、Forced Authorization Code (FAC; 強制承認コード)、クライアント識別コード (CMC)、ダイヤル一時停止、追加の番号入力 (ユーザ内線番号、会議のアクセスコード、ボイスメールパスワードなど) が必要な宛先に到達できます。短縮ダイヤルを押すと、電話機は指定した DN とのコールを確立し、指定した FAC、CMC、DTMF デジットを宛先に送信して、必要なダイヤル一時停止を使用します。
ピア ファームウェア共有 (PFS)	<p>リモート サイトにある複数の IP Phone 間でファームウェア ファイルを共有して、アップグレードプロセスが行われるときの帯域幅を保存できます。この機能は、デバイスのピアツーピア階層を構成するために使用されるシスコ独自のプロトコルである、Cisco Peer-to-Peer-Distribution Protocol (CPPDP) を使用します。CPPDP は、ファームウェアや他のファイルをピア デバイスからネイバー デバイスにコピーするためにも使用します。</p> <p>PFS は、帯域幅が制限された WAN リンクを経由するブランチ/リモート オフィス導入シナリオでのファームウェアのアップグレードに役立ちます。</p> <p>従来のアップグレード方式を上回る次の利点があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中央集中型リモート TFTP サーバへの TFTP 転送における輻輳が制限されます。 • ファームウェアのアップグレードを手動で制御する必要がなくなります。 • アップグレード時に多数のデバイスが同時にリセットされた場合の電話機のダウンタイムが削減されます。 <p>IP Phone の数が増えればそれだけ、従来のファームウェア アップグレード方式と比較してパフォーマンスが向上します。</p>
キュー統計情報の PLK サポート	キュー統計情報の PLK サポート機能により、ユーザは、ハントパイロットのコール キュー統計を照会することができ、情報が電話機の画面に表示されません。
プラス ダイヤル	<p>ユーザが先頭にプラス (+) 記号を付けて E.164 番号をダイヤルできるようにします。</p> <p>+記号をダイヤルするには、ユーザはアスタリスク (*) キーを1秒以上押し続ける必要があります。これは、オンフック (編集モードを含む) またはオフフック コールの最初の桁のダイヤルに適用されます。</p>
LLDP での電力ネゴシエーション	電話機では Link Level Endpoint Discovery Protocol (LLDP) および Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用して電力をネゴシエートできます。
エラー レポート ツール	電話機のログを提出するか、問題を管理者に報告します。

機能	説明と詳細情報
Quality Reporting Tool (QRT; 品質レポートツール)	ユーザが、ボタンを押して、問題のあるコールの情報を送信できます。QRT は、QRTに必要なユーザインタラクションの量に応じて、2つのユーザモードのどちらかに設定できます。
リダイヤル	ユーザは、ボタンを押すか、[リダイヤル (Redial)] ソフトキーを押して、最後にダイヤルした電話番号にコールをかけることができます。
リモート カスタマイズ (RC)	サービスプロバイダーは電話機をリモートでカスタマイズできます。サービスプロバイダーが電話機を物理的に触ったり、ユーザが電話機を設定する必要はありません。サービスプロバイダーは、電話の注文時にセールスエンジニアと一緒にこの設定を行うことができます。
呼出音の設定	電話機に別のアクティブコールが着信したときに、回線で使用される呼出音タイプを指定します。
名前の逆引きルックアップ	着信コールまたは発信コールの番号を使用して発信者名を識別します。LDAP ディレクトリまたは XML ディレクトリを設定する必要があります。電話管理の Web ページを使用して名前の逆引きルックアップを有効または無効にできます。
SIP の RTCP 保留	保留中のコールがゲートウェイによってドロップされないようにします。ゲートウェイでは RTCP ポートのステータスを確認して、コールがアクティブかどうかを判別されます。電話ポートを開いたままにしておくことによって、ゲートウェイは保留中のコールを終了しません。
セキュアな会議	<p>セキュアな電話機で、セキュアな会議ブリッジを使用して会議コールを発信できます。[会議 (Confm)]、[参加 (Join)]、[割り込み (cBarge)] ソフトキーまたはミーティング会議を使用して新しい参加者が追加されると、すべての参加者がセキュアな電話機を使用している間はセキュアコールのアイコンが表示されます。</p> <p>会議の各参加者のセキュリティ レベルが [会議リスト (Conference List)] に表示されます。開催者は、非セキュアの参加者を [会議参加者リスト (Conference List)] から削除できます。[拡張アドホック会議 (Advanced Adhoc Conference)] に [有効 (Enabled)] パラメータが設定されていれば、開催者でなくても会議参加者を追加または削除できます。</p>
SIP エンドポイントの有用性	<p>管理者が電話機からデバッグ情報をより迅速かつ簡単に収集できるようにします。</p> <p>この機能は、各 IP フォンにリモート アクセスするために SSH を使用します。この機能を使用するには、各電話機の SSH が有効になっている必要があります。</p>
共有回線	複数の電話機で同じ電話番号を共有したり、電話番号を同僚と共有したりできるようにします。

機能	説明と詳細情報
発信者 ID および発信者番号の表示	<p>電話機に、着信コールの発信者 ID と発信者番号の両方を表示できます。IP Phone の LCD ディスプレイのサイズによって、表示される発信者 ID と発信者番号の長さが制限されます。</p> <p>発信者 ID および発信者番号の表示機能は、着信コールのアラートのみに適用されます。コール転送とハント グループの機能は変更されません。</p> <p>この表の「発信者 ID」を参照してください。</p>
通話履歴での通話時間の表示	<p>通話履歴の詳細に発信、受信通話の通話時間を表示します。</p> <p>通話時間が 1 時間以上になった場合、時間、分、秒 (HH:MM:SS) の形式で時間が表示されます。</p> <p>通話時間が 1 時間未満の場合は、分、秒 (MM:SS) 形式で時間が表示されません。</p> <p>通話時間が 1 分未満の場合は、秒 (SS) 形式で時間が表示されます。</p>
着信コールをサイレント状態にする	[無視 (Ignore)] ソフトキーを押すか音量ボタンを調節することにより、着信コールをサイレント状態にできます。
短縮ダイヤル	記憶されている指定番号をダイヤルします。
タイム ゾーンのアップデート	タイム ゾーンの変更に伴い、Cisco IP Phone を更新します。
[転送]	<p>ユーザは、接続されているコールを自分の電話機から別の番号にリダイレクトできます。</p> <p>一部の JTAPI/TAPI アプリケーションでは、Cisco IP Phone の参加および直接転送機能と互換性がないため、参加および直接転送ポリシーを設定して、同一回線上や、場合によっては複数の回線をまたいだ参加と直接転送を無効にする必要があります。</p>
ボイス メッセージ システム	コールに応答がない場合に、発信者がメッセージを残せるようにします。
Web アクセスはデフォルトで有効	Web サービスは、デフォルトで有効になっています。
XSI 通話履歴表示	<p>BroadWorks サーバまたはローカル電話のいずれかからの最近の通話履歴を表示するように電話機を設定できます。この機能を有効にすると、[通話履歴 (Recent)] 画面には [次からの通話履歴を表示 (Display recents from)] メニューが表示され、ユーザは XSI 通話履歴またはローカル通話履歴を選択できます。</p>

機能ボタンとソフトキー

次の表は、ソフトキーで利用可能な機能と専用機能ボタンで利用可能な機能に関する情報を示しています。この表の「X」は、その機能が対応するボタンのタイプまたはソフトキーでサポートされることを意味します。



(注) Cisco IP Phone 7832 にはプログラマブル機能ボタンがありません。

表 1: 機能とボタンおよびソフトキーの対応

機能名	専用機能ボタン	ソフトキー
応答		X
すべてのコールの転送		X
コールパーク		X
コールピックアップ (ピックアップ)		X
会議		X (接続中の会議コールシナリオでのみ表示)
即転送		X
取り込み中		X
保留中 (Hold)		X
ミュート	X	
リダイヤル		X
短縮ダイヤル		X
[転送]		X (接続中のコール転送シナリオでのみ表示)

回線キーの短縮ダイヤルの設定

ユーザの電話機のアイドル回線に短縮ダイヤルを設定できます。ユーザはその回線キーを使用して、短縮ダイヤル番号にかけられます。回線キーの短縮ダイヤルを有効にすると、ユーザに

は短縮ダイヤルのアイコンが、その短縮ダイヤル回線キーの名前とともに表示されます。ユーザはその回線キーを押して割り当てられた内線番号にダイヤルします。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

-
- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2 短縮ダイヤルを設定する回線キーを選択します。
 - ステップ 3 内線番号を無効にするには、[内線 (Extension)] プルダウンメニューから [無効 (Disabled)] を選択します。
 - ステップ 4 [拡張機能 (Extended Function)] フィールドに、次の形式で文字列を入力します。

fnc=sd;ext=9999@\$PROXY;nme=xxxx

従来の数字の代わりに英数字で電話をかけられるようにする英数字ダイヤル機能を電話機に設定する場合には、この形式で文字列を入力できます。

fnc=sd;ext=xxxx.yyyy@\$PROXY;vid=n;nme=xxxx

定義：

- fnc = sd は機能 = 短縮ダイヤルを意味します。
- ext = 9999 は、回線キーで呼び出す電話機です。9999 を適切な電話番号で置き換えます。
ext = xxxx.yyyy は、回線キーで呼び出す電話機です。Xxxx.yyyy を英数字で置き換えます。英数字ダイヤリングに使用できる文字は、a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9、-、_、.、および + です。
- vid = n は電話機の回線インデックスです。
- nme = XXXX は短縮ダイヤル回線キーについて電話機で表示される名前です。XXXX を名前で置き換えます。

回線キーに XML サービスを設定することもできます。次の形式で文字列を入力します。

fnc=xml;url=http://xml.service.url;nme=name

- ステップ 5 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
-

[設定ユーティリティ (Configuration Utility)] ページでの短縮ダイヤルの設定

電話機の短縮ダイヤルを Web インターフェイスで設定できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [ユーザ (User)] を選択します。
- ステップ 2 [短縮ダイヤル (Speed Dial)] セクションで短縮ダイヤルのエントリに対応する名前と番号を入力します。
- ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

短縮ダイヤル

パラメータ	説明
[短縮ダイヤル名 (Speed Dial Name)]	短縮ダイヤルに付与された名前を示します。
[短縮ダイヤル番号 (Speed Dial Number)]	短縮ダイヤルに割り当てられた番号を示します。

英数字ダイヤリングの設定

電話機のユーザが数字のみの代わりに英数字をダイヤルしてコールを発信できるように電話機を設定することができます。電話の web ページで、スピードダイヤル、BLF、コールピックアップとともに英数字ダイヤルを設定できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ1 [音声 (Voice)] > [内線 (Ext)] を選択します。

ステップ2 [URI ダイアルの有効化1 (Enable URI Dialing 1)] で、[はい (Yes)] を選択して英数字ダイヤルを有効にします。

電話機のページで、回線キーに対して、次の形式で文字列を追加して、短縮ダイヤルとともに英数字ダイヤル機能を有効にすることができます。

```
fnc=sd;ext=xxxx.yyyy@$PROXY;nme=yyyy,xxxx
```

例：

```
fnc=sd;ext=first.last@$PROXY;nme=Last,First
```

上記の例では、ユーザがコールを発信する際に「first.dial」とダイヤルできるようになります。

(注) 英数字ダイヤルに使用できるサポートされている文字は、a~z、A~Z、0~9、-、_、.、および+です。

ステップ3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

ページンググループ（マルチキャストページング）の設定

マルチキャストページングを設定して、ユーザがすべての電話機を一度にページングしたり、サーバを使用しないで電話機のグループをページングしたりできます。設定ユーティリティのページで、電話機をページンググループの一部として設定し、同じマルチキャストアドレスに登録できます。これにより、ユーザは特定のグループの電話機を直接ページングできます。各ページンググループに一意の番号で割り当てると、ユーザはページングを開始するページンググループの番号をダイヤルします。同じマルチキャストアドレスに登録しているすべての電話機 ([設定ユーティリティ (Configuration Utility)] ページで同様に設定済み) はページングを受信します。ページング着信があると、ユーザには3回の短いビープ音のページングトーンが聞こえます。

次の点に注意してください。

- 同じページンググループのすべてのデバイスが対応するマルチキャストグループに参加できるよう、ネットワークはマルチキャストをサポートする必要があります。
- ページンググループは偶数のポート番号を使用する必要があります。
- グループページの開始時に電話機でアクティブな通話が行われると、着信ページは無視されます。
- グループページングは1つの方法であり、G711 コーデックを使用します。ページングされた電話機は発信者からのコールのみを聞くことができます。

- DND を有効にすると受信ページは無視されます。
- ページングが発生すると、ページングされた電話機のスピーカーの電源が自動的にオンになります。
- グループページの開始時に電話機でアクティブな通話が行われると、着信ページは無視されます。コールが終了すると、ページがアクティブな場合、ページへの応答が行われます。
- 複数のページが発生すると、ページは時間的な流れに沿って応答が行われます。アクティブなページが終了するまで、次のページには応答が行われません。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。

ステップ 2 [複数のページンググループパラメータ (Multiple Paging Group Parameters)] セクションで、[グループページングスクリプト (Group Paging Script)] フィールドにこの形式で文字列を入力します。

```
pggrp=multicast-address:port;[name=xxxx;]num=yyy;[listen={yes|no}];
```

定義：

- multicast-address = ページをリッスンし受信する電話機のマルチキャスト IP アドレスです。
- port = ページするポート。ページンググループごとに、異なる偶数のポートを使用する必要があります。
- 注意** マルチキャスト ページングは、奇数番号のポートでは動作しません。
- Name (省略可能) = xxxx はページンググループの名前です。xxxx は名前に置き換えてください。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
- num = yyy はページンググループにアクセスするためにユーザがダイヤルする一意の番号です。yyy は数字に置き換えてください。番号は最大 64 文字で指定でき、許容範囲は 1024 ~ 32767 です。
- listen = 電話機がページンググループをリッスンするかどうかを示します。listen が **yes** に設定されている最初の 2 つのグループのみがグループページングをリッスンします。このフィールドが定義されていない場合、デフォルト値は **no** なので、グループページングをリッスンするにはこのフィールドを設定する必要があります。

設定文字列の最後にページンググループを追加することで、さらにページンググループを追加できます。いくつかのページンググループの例を以下に示します。

```
pggrp=224.168.168.168:34560;name=All;num=500;listen=yes;
pggrp=224.168.168.168:34562;name=GroupA;num=501;listen=yes;
pggrp=224.168.168.168:34564;name=GroupB;num=502;
pggrp=224.168.168.168:34566;name=GroupC;num=503;
```

この例では、4つのページンググループ (**All**、**GroupA**、**GroupB**、**GroupC**) を作成します。ユーザが 500 をダイヤルするとすべての電話機にページが送信され、501 をダイヤルすると **GroupA** グループの一部として設定されている電話機にページが送信され、502 をダイヤルすると **GroupB** グループの一部として設定されている電話機にページが送信され、503 をダイヤルすると **GroupC** グループの一部として設定されている電話機にページが送信されます。設定されている電話機が、**All** グループと **GroupA** グループに送信されたページを受信します。

ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

プログラム可能なソフトキーの設定

電話機に表示されるソフトキーをカスタマイズできます。デフォルトのソフトキー (電話機がアイドル状態の場合) は、[リダイヤル (Redial)]、[ディレクトリ (Directory)]、[コール転送 (Call Forward)]、[応答不可 (Do Not Disturb)] です。他のソフトキーは、特定のコール状態のときに使用できます (たとえば、コールが保留中の場合は、[再開 (Resume)] ソフトキーが表示されます)。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。

ステップ 2 [プログラム可能なソフトキー (Programmable Softkeys)] で、ソフトキーを表示するコール状態に応じてソフトキーを編集します。詳細については、[プログラム可能なソフトキー \(21 ページ\)](#) を参照してください。

[プログラム可能なソフトキー (Programmable Softkeys)] セクションに、各電話機の状態が表示され、その状態のときに表示できるソフトキーがリストされます。各ソフトキーはセミコロンで区切られます。ソフトキーは次の形式で表示されます。

```
softkeyname |[ position ]
```

ここで `softkeyname` はキーの名前、`position` は IP フォンの画面上のキーの表示位置です。位置には番号が付けられます。位置 1 は IP フォンの画面の左下に表示され、その後位置 2 ~ 4 が続きます。追加の位置 (5 以降) には、電話機の右矢印キーを押してアクセスします。ソフトキーの位置が指定されない場合、キーがフローティングして、IP フォンの画面で最初に使用可能な空の位置に表示されます。

ステップ3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

プログラム可能なソフトキーのカスタマイズ

電話機には16個のプログラム可能なソフトキーが用意されています ([PSK1 (PSK1)] フィールドから [PSK16 (PSK16)] フィールドまで)。短縮ダイヤルスクリプトでこのフィールドを定義できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ1 [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。

ステップ2 [プログラム可能なソフトキー (Programmable Softkeys)] セクションで、[プログラム可能なソフトキー有効 (Programmable Softkey Enable)] を [はい (Yes)] に設定します。

ステップ3 電話機の機能を設定するプログラム可能なソフトキーの数値フィールドを選択します。

ステップ4 プログラム可能なソフトキーの文字列を入力します。 [プログラム可能なソフトキーの短縮ダイヤルの設定 \(19ページ\)](#) で説明されている、さまざまなタイプのプログラム可能なソフトキーを参照してください。

ステップ5 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

プログラム可能なソフトキーの短縮ダイヤルの設定

プログラム可能なソフトキーを短縮ダイヤルとして設定できます。短縮ダイヤルには内線番号または電話番号を指定することができます。特定業種向けサービス アクティベーション コード (またはスター [*] コード) で定義されたアクションを実行する短縮ダイヤルを使用して、プログラム可能なソフトキーを設定することもできます。たとえば、短縮ダイヤルの *67 を使用してプログラム可能なソフトキーを設定した場合、コールは保留されます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ1 [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。

ステップ 2 [プログラム可能なソフトキー (Programmable Softkeys)] セクションで、[プログラム可能なソフトキー有効 (Programmable Softkey Enable)] を [はい (Yes)] に設定します。

ステップ 3 PSK の短縮ダイヤルを設定するには、PSK の [番号 (number)] フィールドに次のように入力します。

```
fnc=sd;ext=extensionname/starcode@$PROXY;vid=n;nme=name
```

場所：

- **fnc** = キーの機能 (短縮ダイヤル)
- **extensionname** = ダイヤルされている内線番号または実行するスター コードアクション
- **vid = n** は短縮ダイヤルがダイヤルアウトする内線番号
- **name** は設定されている短縮ダイヤルの名前

(注) [名前 (name)] フィールドが IP フォンの画面上のソフトキーに表示されます。電話機 1 台につき最大 10 文字をお勧めします。それ以上の文字を使用している場合、ラベルは電話機の画面上で切り捨てられる可能性があります。

ステップ 4 次を編集します。

- [アイドルキーリスト (Idle Key List)] : 次の例に示すようにフィールドを編集します。

```
redial|1;newcall|2;dnd;psk1
```

ユーザが電話機に設定したプログラム可能なソフトキーリスト機能が正しくない場合、電話機の LCD のキー リストは更新されません。例：

- ユーザが **rdeial;newcall;cfwd** と入力した場合 (redial のスペルが不正) 、キーリストは更新されず、LCD に変更が表示されません。
- ユーザが **redial;newcall;cfwd;delchar** と入力した場合、delchar ソフトキーが [アイドルキーリスト (Idle Key List)] で許可されていないため、LCD に変更が表示されません。したがって、これはプログラム可能なソフトキーリストの不正な設定です。

- **PSK1** :

```
fnc=sd;ext=5014@$PROXY;nme=sktest1
```

(注) この例では、内線番号 5014 (sktest1) の短縮ダイヤル番号として電話機にソフトキーを設定します。

プログラム可能なソフトキーに XML サービスを設定することもできます。次の形式で文字列を入力します。

```
fnc=xml;url=http://xml.service.url;nme=name
```

ステップ 5 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

プログラム可能なソフトキー

キーワード	キー ラベル	定義	利用可能な電話ステータス
acd_login	Agt サインイン	ユーザが自動着信呼分配 (ACD) にログインします。	アイドル
acd_logout	Agt サインアウト	ユーザが ACD からログアウトします。	アイドル
応答	応答	着信コールに応答します。	Ringling
astate	Agt ステータス	ACD ステータスを確認します。	アイドル
avail	Avail	ACDサーバにログインしているユーザが自分のステータスを応対可能に設定していることを示します。	アイドル
barge	割り込み	他のユーザが共有コールに割り込めるようにします。	共有アクティブ、共有保留
bargesilent	バージ無音	他のユーザがマイクは使用できない状態で共有コールに割り込めるようにします。	共有アクティブ
bxfer	ブラインド転送	ブラインドコール転送 (コールの転送先の相手と話さずにコールを転送する) を実行します。ブラインド転送サービスが有効になっている必要があります。	接続中
call (または dial)	コール	リスト内の選択した項目に発信します。	ダイヤリング入力
call info	Call Info	コール情報を表示します。	進行中
キャンセル	キャンセル	コールをキャンセルします (電話会議の開催時に相手が応答しなかったときなど)。	オフフック
cfwd	転送/Clr 転送	すべてのコールを指定された番号に転送します。	アイドル、オフフック、共有アクティブ、保留、共有保留
crdpause	録音一時停止	録音を一時停止します。	接続済み、会議
crdresume	録音再開	録音を再開します。	接続済み、会議

キーワード	キー ラベル	定義	利用可能な電話ステータス
crdstart	録音	録音を開始します。	接続済み、会議
crdstop	録音停止	記録の停止	接続済み、会議
conf	会議	会議通話を開始します。会議サーバが有効になっており、アクティブまたは保留中の2つ以上のコールが存在する必要があります。	接続中
confLx	会議回線	電話機の会議アクティブ回線。会議サーバが有効になっており、アクティブまたは保留中の2つ以上のコールが存在する必要があります。	接続中
delchar	delChar : バックスペースアイコン	テキストの入力中に文字を削除します。	ダイヤリング入力
dir	Dir	電話帳へのアクセスを提供します。	アイドル、不在、オフフック（入力なし）、接続済み、転送開始、会議開始、会議、保留、呼び出し中、共有アクティブ、共有保留
disp_code	廃棄コード	廃棄コードを入力します。	アイドル、接続済み、会議、保留
dnd	DND / Clr Dnd	応答不可を設定して着信時に電話機が鳴らないようにします。	アイドル、オフフック、保留、共有アクティブ、共有保留、会議、会議開始、転送開始
emergency	緊急	緊急番号を入力します。	接続中
em_login (または signin)	Sign in	ユーザがエクステンション モビリティにログインします。	アイドル
em_logout (または signout)	Sign out	エクステンション モビリティからユーザをログアウトさせます。	アイドル
endcall	コールの終了	通話を終了します。	接続済み、転送開始、会議開始、会議、保留

キーワード	キー ラベル	定義	利用可能な電話ステータス
favorites	お気に入り	「短縮ダイヤル」へのアクセスを提供します。	アイドル、不在、オフフック（入力なし）、接続済み、転送開始、会議開始、会議、保留、呼び出し中、共有アクティブ、共有保留
gpickup	グループ ピックアップ	ユーザが呼び出し中の内線番号を検出することにより、そのコールに応答できるようにします。	アイドル、オフフック
保留	保留中 (Hold)	コールを保留にします。	接続済み、転送開始、会議開始、会議
ignore	却下	着信コールを無視します。	Ringling
ignoresilent	無視	着信コールをサイレント状態にします。	Ringling
参加	サンカ	電話会議に接続します。会議のホストがユーザ A で、ユーザ B とユーザ C が参加者である場合、A が [参加 (Join)] を押すと、A は離脱して、ユーザ B とユーザ C が接続されます。	会議
lcr	Call Rtn/lcr	最後の不在着信を返します。	アイドル、不在着信、オフフック（入力なし）
left	左矢印アイコン	カーソルを左に移動します。	ダイヤリング入力
メッセージ	メッセージ	ボイスメールへのアクセスを提供します。	アイドル、不在、オフフック（入力なし）、接続済み、転送開始、会議開始、会議、保留、呼び出し中、共有アクティブ、共有保留
miss	不在 (Miss)	不在着信のリストを表示します。	不在着信
newcall	発信	新しいコールを開始します。	アイドル、保留、共有アクティブ、共有保留
option	オプション	入力オプションのメニューを開きます。	オフフック

キーワード	キー ラベル	定義	利用可能な電話ステータス
パーク	パーク	指定された「パーク」番号でコールを保留にします。	接続中
phold	PrivHold	アクティブ共有回線上のコールを保留にします。	接続中
ピック	ピック	別の内線番号で呼出音が鳴っていても、その内線番号を入力してそのコールに応答できます。	アイドル、オフフック
recents	Recents	通話履歴からすべてのコールリストを表示します。	アイドル、オフフック、保留、共有アクティブ、共有保留
redial	リダイヤル	リダイヤルリストを表示します。	アイドル、接続済み、会議開始、転送開始、オフフック（入力なし）、保留
resume	復帰	保留中のコールを再開します。	保留、共有保留
right	右矢印アイコン	カーソルを右に移動します。	ダイヤリング（入力）
設定	設定	「情報と設定」へのアクセスを提供します。	すべて
starcode	スターコード/*コードの入力	選択可能なスターコードのリストを表示します。	オフフック、ダイヤリング（入力）
トレース	Trace	トレースをトリガーします。	アイドル、接続済み、会議、保留
unavail	応対不可	ACDサーバにログインしているユーザが自分のステータスを応対不可に設定していることを示します。	アイドル
unpark	パーク解除	パークされたコールを再開します。	アイドル、オフフック、接続済み、共有アクティブ
xfer	[転送]	コール転送を実行します。在席転送サービスが有効になっており、少なくとも1つの接続済みコールと1つのアイドルコールが存在する必要があります。	接続済み、転送開始、会議開始

キーワード	キー ラベル	定義	利用可能な電話ステータス
xferlx	転送回線	電話機上のアクティブ回線を着信者番号に転送します。在席転送サービスが有効になっており、アクティブまたは保留中の2つ以上のコールが存在する必要があります。	接続中

プロビジョニング権限の設定

ユーザがパーソナライズされた電話機の設定に他の電話機からアクセスできるように、プロビジョニング権限を設定することができます。たとえば、異なるシフトで勤務する人、またはその週のうちに異なるデスクで仕事をする人が、パーソナライズされた個人の設定を維持したまま内線番号を共有することができます。

電話機でプロビジョニング権限を有効にすると、[サインイン (Sign in)] ソフトキーが電話機に表示されます。ユーザはユーザ名とパスワードを入力して個人の電話機設定にアクセスします。ユーザはサインインを無視して、ゲストとして電話機を使用することもできます。サインインすると、ユーザは電話機で個人の電話番号にアクセスします。ユーザがサインアウトすると、電話機は機能が制限された基本的なプロファイルに戻ります。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [プロビジョニング (Provisioning)] を選択します。

ステップ 2 [設定プロファイル (Configuration Profile)] セクションで、[プロファイルルール (Profile Rule)] フィールドを電話機の設定ファイルの URL に設定します。

例：

`http://192.0.2.1:80/dms/CP-MMxx-MPP/MMxxSystem.xml`

値は次のとおりです。

MM - マルチプラットフォーム対応のファームウェアを備えた Cisco IP Phone MM シリーズ (68、78、または 88)

MMxx - Cisco 固有の電話機モデル (たとえば 7841、7861、8845、8865 または 7832)

ステップ 3 [管理者ログイン (Admin Login)] > [詳細 (advanced)] > [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。

- ステップ 4** 電話機の設定ファイルで提供されている情報に基づいて、[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] セクションの [EM対応 (EM Enable)] フィールドと [EMユーザドメイン (EM User Domain)] フィールドを入力します。
- ステップ 5** [セッションタイマー (分) (Session Timer (m))] で、電話セッションが継続する時間を分単位で設定します。セッション時間が過ぎると電話はサインアウトします。
- ステップ 6** ユーザがサインアウトをキャンセルする必要がある時間 (秒単位) を [カウントダウンタイマー (Countdown Timer(s))] に設定します。
- ステップ 7** パスワードの入力タイプを [希望のパスワード入力モード (Preferred Password Input Mode)] フィールドから選択します。
- [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] フィールドについては、[エクステンションモビリティ](#)を参照してください。
- ユーザは、パスワードの入力タイプを電話機から変更することもできます。
- ステップ 8** (任意) [プログラム可能なソフトキー (Programmable Softkeys)] セクションの [プログラム可能なソフトキー有効 (Programmable Softkey Enable)] フィールドが [はい (Yes)] に設定されている場合、[アイドルキーリスト (Idle Key List:)] に **signin** を追加します。
- 例 :
- ```
newcall|1;signin|2
```
- ステップ 9** [すべての変更の送信 (Submit All Changes) ] をクリックします。

## 電話の設定ファイルでのプロビジョニング権限の設定

電話機のデフォルト設定ファイルでプロビジョニング権限を有効化できるため、この機能を各電話機に対して手動で設定する必要はありません。

### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機の Web ページへのアクセス](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** 電話機の設定ファイルで次のパラメータを設定します。
- a) プロビジョニング権限のプロファイルルールを **Profile\_Rule** パラメータで設定します。
- 例 :
- ```
<Profile_Rule ua="na">("$EMS" eq "mobile" and "$MUID" ne "" and "$MPWD" ne "")?[--uid $MUID$PDOM --pwd $MPWD] http://10.74.121.51:80/dns/CP-8851-3PCC/8851System.xml|http://10.74.121.51:80/dns/CP-8851-3PCC/8851System.xml</Profile_Rule>
```
- b) **EM_Enable** パラメータを **Yes** に設定します。
- 例 :

```
<EM_Enable ua="na">Yes</EM_Enable>
```

- c) 電話機のドメインまたは認証サーバを **EM_User_Domain** パラメータに入力します。

例 :

```
<EM_User_Domain ua="na">@10.74.121.51</EM_User_Domain>
```

ステップ 2 設定ファイルを保存して、プロビジョニング サーバにアップロードします。

ステップ 3 [音声 (Voice)] > [プロビジョニング (Provisioning)] を選択します。

ステップ 4 設定ファイルへのファイルパスを [プロファイルルール (Profile Rule)] フィールドのいずれかに入力します。

例 :

```
http://<SERVER IP ADDRESS>:80/dms/td_8861/8861System.xml
```

ステップ 5 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

電話機のホテリングの有効化

Broadworks でホテル機能を設定し、電話機をホストまたはゲストとして設定します。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [内線[n] (Ext [n])] を選択します。ここで、[n] は内線番号です。

ステップ 2 [コール機能の設定 (Call Feature Settings)] セクションで、[Broadsoftホテリングの有効化 (Enable Broadsoft Hoteling)] を [はい (Yes)] に設定します。

ステップ 3 ユーザがゲストとして電話機にサインインできる時間 (秒単位) を [ホテリングサブスクリプションの有効期限 (Hoteling Subscription Expires)] に設定します。

ステップ 4 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

ユーザパスワードの設定

ユーザが自分の電話機に独自のパスワードを設定するか、管理者がユーザのパスワードを設定できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [システム (System)] を選択します。
 - ステップ 2 [ユーザパスワード (User Password)] フィールドでパスワードを設定します。
 - ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
-

エラー レポート ツールのログのダウンロード

ユーザは、エラー レポート ツールを使用して問題のレポートを管理者に送信します。

Cisco TAC と協力して問題をトラブルシューティングする場合、通常は問題の解決に役立つエラー レポート ツールのログを要求されます。

ユーザが問題レポートを発行するには、エラー レポート ツールにアクセスし、問題が発生した日時と、問題の詳細を記入します。問題レポートは [設定ユーティリティ (Configuration Utility)] ページからダウンロードする必要があります。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [情報 (Info)] > [デバッグ情報 (Debug Info)] > [デバイスログ (Device Logs)] を選択します。
 - ステップ 2 [問題レポート (Problem Reports)] 領域で、エラー レポート ファイルをクリックしてダウンロードします。
 - ステップ 3 ファイルをローカル システムに保存します。エラー レポート ログにアクセスする場合はこのファイルを開きます。
-

PRT アップロードの設定

ユーザが電話機から送信する問題レポートを受信するには、アップロードスクリプトをもつサーバを使用する必要があります。

- [PRTアップロードルール (PRT Upload Rule)] フィールドで指定された URL が有効な場合、ユーザは電話の UI に、問題レポートの送信に成功した旨の通知アラートを受け取ります。

- [PRTアップロードルール (PRT Upload Rule)]フィールドが空、または無効な URL が指定されている場合、ユーザは電話の UI に、データのアップロードが失敗した旨の通知アラートを受け取ります。

電話機は、HTTP フォームベースのアップロードに類似したパラメータを使用する HTTP/HTTPS POST メカニズムを使用します。次のパラメータは、アップロード (マルチパート MIME エンコードを利用) に含まれます。

- `devicename` (例: "SEP001122334455")
- `serialno` (例: "FCH12345ABC")
- `Username` (ユーザ名は、内線番号の [ステーション表示名 (Station Display Name)] または [ユーザID (User ID)] のいずれかです。 [ステーション表示名 (Station Display Name)] が先に考慮されます。このフィールドが空の場合、 [ユーザID (User ID)] が選択されます)
- `prt_file` (例: "probrep-20141021-162840.tar.gz")

特定の間隔で自動的に PRT を生成し、PRT ファイル名を定義できます。

スクリプトのサンプルを次に示します。このスクリプトは参考用としてのみ提供されます。シスコでは、お客様のサーバにインストールされたアップロードスクリプトのサポートは提供していません。

```
<?php
// NOTE: you may need to edit your php.ini file to allow larger
// size file uploads to work.
// Modify the setting for upload_max_filesize
// I used: upload_max_filesize = 20M

// Retrieve the name of the uploaded file
$filename = basename($_FILES['prt_file']['name']);

// Get rid of quotes around the device name, serial number and username if they exist
$devicename = $_POST['devicename'];
$devicename = trim($devicename, "'\"");

$serialno = $_POST['serialno'];
$serialno = trim($serialno, "'\"");

$username = $_POST['username'];
$username = trim($username, "'\"");

// where to put the file
$fullfilename = "/var/prtuploads/".$filename;

// If the file upload is unsuccessful, return a 500 error and
// inform the user to try again

if(!move_uploaded_file($_FILES['prt_file']['tmp_name'], $fullfilename)) {
    header("HTTP/1.0 500 Internal Server Error");
    die("Error: You must select a file to upload.");
}

?>
```

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [プロビジョニング (Provisioning)] を選択します。

ステップ 2 [問題レポートツール (Problem Report Tool)] セクションで、問題レポート ツールの説明に従ってフィールドを設定します。

XML (cfg.xml) コードを使用して電話機構成ファイルのパラメータを設定することもできます。次の形式で文字列を入力します。

```
<PRT_Upload_Rule ua="na">
http://64.101.234.132:8000//Users/abcd/uploads/prt/test-prt.tar.gz
</PRT_Upload_Rule>
<PRT_Upload_Method ua="na">POST</PRT_Upload_Method>
<PRT_Max_Timer ua="na">20</PRT_Max_Timer>
```

ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

自動的にページを承認するための電話機の設定

シングルページングまたはインターコム機能により、ユーザが電話で別のユーザに直接連絡できます。ページング対象者の電話機がページを自動的に受け入れるよう設定されている場合、電話機は鳴動しません。代わりに、ページングが開始されると、2 台の電話機間の直接接続が自動的に確立されます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [ユーザ (User)] を選択します。

ステップ 2 [補足サービス] セクションで、[ページに自動応答 (Auto Answer Page)] フィールドに対して [はい] を選択します。

ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

サーバに設定済みのページング

ユーザが電話機のグループをページングできるようにするために、サーバにページンググループを設定できます。詳細については、サーバのマニュアルを参照してください。

TR-069 を使用した電話機の管理

技術レポート 069 (TR-069) で定義されているプロトコルと標準規格を使用して電話機を管理することができます。TR-069 では、大規模な導入環境ですべての電話機とその他の顧客宅内機器 (CPE) を管理するための共通プラットフォームについて説明しています。プラットフォームは電話機の種類やメーカーの影響を受けません。

双方向の SOAP/HTTP ベース プロトコルとして、TR-069 は CPE および自動コンフィギュレーションサーバ (ACS) 間で通信を提供します。

TR-069 の機能拡張については、[TR-069 パラメータの比較](#)を参照してください。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機の Web ページへのアクセス](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [音声 (Voice)] > [TR-069] を選択します。
 - ステップ 2** [TR-069](#)の説明に従って、フィールドを設定します。
 - ステップ 3** [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
-

TR-069 ステータスの表示

ユーザの電話機で TR 069 を有効にすると、[設定 (Configuration)] ページに tr-069 パラメータのステータスを表示できます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機の Web ページへのアクセス](#)を参照してください。

手順

[情報 (Info)] > [ステータス (Status)] > [TR-069ステータス (TR-069 Status)] を選択します。

TR-069 に TR-069 パラメータのステータスを表示できます。

電話機の Web ページから電話機のすべての問題をレポート

Cisco TAC と協力して問題をトラブルシューティングする場合、通常は問題の解決に役立つエラーレポートツールのログを要求されます。電話機の Web ページを使用して PRT ログを生成したり、そのログをリモート ログ サーバにアップロードすることができます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

手順

ステップ 1 [情報 (Info)] > [デバッグ情報 (Debug Info)] を選択します。

ステップ 2 [問題レポート (Problem Reports)] セクションで、[PRTの生成 (Generate PRT)] をクリックします。

ステップ 3 [問題の報告 (Report Problem)] 画面で次の情報を入力します。

- a) [日付 (Date)] フィールドに、問題が発生した日付を入力します。デフォルトではこのフィールドに現在の日時が表示されます。
- b) [時間 (Time)] フィールドに、問題が発生した時刻を入力します。デフォルトではこのフィールドに現在の時刻が表示されます。
- c) [問題の選択 (Select Problem)] ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能なオプションから問題の説明を選択します。

ステップ 4 [問題の報告 (Report Problem)] 画面で [送信 (Submit)] をクリックします。

[問題の選択 (Select Problem)] ドロップダウン リスト ボックスで値を選択した場合にのみ、送信ボタンが有効になります。

PRT のアップロードが成功したかどうかを示す通知アラートが電話機の Web ページに表示されます。

Web UI ボタンを使用した電話機の初期設定へのリセット

電話機の Web ページから電話機を初期設定にリセットすることができます。リセットは電話機がアイドル状態の場合にのみ発生します。電話機がアイドル状態でない場合は、話中であることと、もう一度やり直す必要があることを示すメッセージが電話機の Web ページに表示されます。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の [Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [管理者ログイン (Admin Login)] > [詳細 (advanced)] > [情報 (Info)] > [デバッグ情報 (Debug Info)] を選択します。
- ステップ 2** [初期設定へのリセット (Factory Reset)] セクションで、[初期設定へのリセット (Factory Reset)] をクリックします。
- ステップ 3** [初期設定へのリセットの確認 (Confirm Factory Reset)] をクリックします。

セキュアな内線のセットアップ

セキュア コールのみを受け入れるように内線を設定できます。内線がセキュア コールだけを受け入れるよう設定されている場合、内線から発信したすべてのコールがセキュアになります。

XML サービスを使用してセキュアな内線を設定することもできます。次の形式で文字列を入力します。

```
<Secure_Call_Serv ua="na">Yes</Secure_Call_Serv>
```

```
<Secure_Call_Option_1_ ua="na">Optional</Secure_Call_Option_1_>
```

始める前に

- セキュアコールサービスが音声 > 電話タブの補足サービスエリアで有効になっていることを確認します。
- 内線の [SIP トラnsポート (SIP Transport)] パラメータが TLS に設定されていることを確認します。
- 電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の [Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [音声 (Voice)] > [内線 (n) (Ext(n))] を選択します。
- ステップ 2** [コール機能の設定 (Call Feature Settings)] セクションの [セキュアコールオプション (Secure Call Option)] フィールドで、[オプション (Optional)] を選択して電話機の現在のセキュアコールオプションを維持するか、[必須 (Required)] を選択して他の電話からの非セキュアコールを拒否します。
- ステップ 3** [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
-

緊急コール

緊急通報のサポート バックグラウンド

緊急通報サービス プロバイダーは、会社の各 IP ベースの電話機のロケーションを登録できます。ロケーション情報サーバ (LIS) は、緊急応答ロケーション (ERL) を電話機に転送します。電話機は再起動した後、およびユーザが電話機にサインインしたとき、登録時にそのロケーションを保存します。ロケーション エントリでは、番地、建物番号、階、室、およびオフィスのその他のロケーション情報を指定することができます。

緊急通報すると、電話機はロケーションをコールサーバに転送します。コールサーバは、コールとロケーションを緊急通報サービス プロバイダーに転送します。緊急通報サービス プロバイダーは、コールと一意のコールバック番号 (ELIN) を緊急サービスに転送します。緊急サービスまたは公安応答局 (PSAP) は、電話機のロケーションを受け取ります。PSAP は、コールが切断された場合、コールバックする番号も受け取ります。

電話機からの緊急通報の説明に使用される用語については、[緊急通報のサポート用語 \(35 ページ\)](#) を参照してください。

内線番号の電話機のロケーションを取得するには、次のパラメータを挿入します。

- [会社ID (Company Identifier)] : NG9-1-1 サービス プロバイダーによって会社に割り当てられた一意の番号 (UUID)。
- [プライマリリクエストURL (Primary Request URL)] : 電話機のロケーションを取得するために使用されるプライマリ サーバの HTTPS アドレス。
- [セカンダリリクエストURL (Secondary Request URL)] : 電話機のロケーションを取得するために使用されるセカンダリ サーバ (バックアップ) の HTTPS アドレス。
- [緊急番号 (Emergency Number)] : 緊急通報を特定する数字シーケンス。各緊急番号をコマンドで区切ることにより、複数の緊急番号を指定することができます。

一般的な緊急サービス番号は次のとおりです。

- 北米 : 911

- 欧州諸国 : 112
- 香港 : 999

電話機は、次の活動が発生すると、新しいロケーション情報をリクエストします。

- 電話機をコール サーバに登録する。
- ユーザが電話機を再起動する（電話機が以前、コール サーバに登録されている場合）。
- ゲストが電話機にサインインする。
- SIP 登録で使用されるネットワーク インターフェイスを変更する（たとえば、Wi-Fi をイーサネットに変更する場合）。
- 電話機の IP アドレスを変更する。

すべてのロケーションサーバがロケーション応答を送信しない場合、電話機は、ロケーション リクエストを 2 分ごとに再送信します。

緊急通報のサポート用語

Cisco マルチプラットフォーム フォンの緊急通報のサポートに関する用語を次に説明します。

- 緊急ロケーション識別番号 (ELIN) : 1 台以上の内線電話を表すために使用する番号であり、緊急サービスにダイヤルしたユーザを識別します。
- 緊急応答ロケーション (ERL) : 一連の内線電話をグループ化した論理ロケーション。
- HTTP 対応ロケーション配信 (HELD) : ロケーション情報サーバ (LIS) から電話機の PIDF-LO ロケーションを取得する暗号化されたプロトコル。
- ロケーション情報サーバ (LIS) : SIP ベースの電話機の HELD リクエストに応答し、HELD XML 応答を使用して電話機のロケーションを提供するサーバ。
- 緊急通報サービス プロバイダー : 電話機のロケーションを使用して電話機の HELD リクエストに応答する会社。緊急通報（電話機のロケーションを伝送する）をかけると、コールサーバが通報をこの会社に転送します。緊急通報サービス プロバイダーは、ELIN を追加して、通報を緊急サービス (PSAP) に転送します。通話が切断された場合、PSAP は ELIN を使用して、緊急通報をかけるのに使用された電話機に再接続します。
- 緊急応答機関 (PSAP) : 緊急サービス IP ネットワークに参加している緊急サービス（たとえば、消防署、警察、救急車など）。
- 汎用一意識別子 (UUID) : 緊急通報サポートを使用して会社を一意に識別するために使用される 128 ビットの数値。

緊急通報を発信するための電話機の設定

始める前に

- 緊急通報サービス プロバイダーから電話用の E911 地理位置情報構成 URL と会社識別子を取得します。同じオフィス内で複数の電話機の内線について、同じ地理位置情報 URL と会社識別子を使用できます。
- 電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の [Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [音声 (Voice)] > [内線 (n) (Ext(n))] をクリックします。ここで、*n* は電話機の web ダイアログの内線番号 (1~10) です。

ステップ 2 [ダイヤルプラン (Dial Plan)] エリアで、[緊急電話番号 (Emergency Number)] を、顧客の緊急サービス番号に対応する数字に設定します。

複数の緊急電話番号を指定するには、それぞれの緊急電話番号をコンマで区切ります。

ステップ 3 [E911地理位置情報構成 (E911 Geolocation Configuration)] エリアで、[会社のUUID (Company UUID)] を、緊急通報サービス プロバイダーから取得した一意の顧客識別子に設定します。

例：

```
07072db6-2dd5-4aa1-b2ff-6d588822dd46
```

ステップ 4 暗号化した [プライマリリクエストURL (Primary Request URL)] を主な地理的に冗長なサーバに指定します。この位置情報サーバは、この電話機の場所を返します。

例：

```
https://prod.blueearth.com/e911Locate/held/held_request.action
```

ステップ 5 暗号化した [セカンダリリクエストURL (Secondary Request URL)] を、位置情報を返すことのできるバックアップサーバに指定します。

例：

```
https://prod2.blueearth.com/e911Locate/held/held_request.action
```

ステップ 6 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

SIP トランスポートの設定

SIP メッセージの場合、各内線に対して、選択したトランスポートプロトコルを指定するか、または電話機が適切なプロトコルを自動的に選択するように設定できます。

自動選択をセットアップすると、電話機は DNS サーバの Name Authority Pointer (NAPTR) レコードに基づいてトランスポートプロトコルを決定します。電話機は順序と優先度が最小のレコードに指定されたプロトコルを使用します。順序と優先度が同じレコードが複数ある場合、電話機はレコード内のプロトコルを次の優先度順序で探します。1 : UDP。2 : TCP。3 : TLS などのプロトコルを使ったセッション層データの暗号化。電話機は最初に検出したプロトコルをその優先度の順序で使用します。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [内線 (n) (Ext(n))] を選択します。ここで、n は内線番号です。
 - ステップ 2 [SIP の設定 (SIP Settings)] セクションで、 [SIP の設定 \(SIP Settings\)](#) の説明に従って [SIP トランスポート (SIP Transport)] パラメータを設定します。
 - ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
-

電話への非プロキシ SIP メッセージのブロック

電話機が非プロキシサーバからの着信 SIP メッセージを受信する機能は無効にできます。この機能を有効にすると、電話機は次からの SIP メッセージのみを受け入れます。

- プロキシサーバ
- アウトバウンドプロキシサーバ
- 代替プロキシサーバ
- 代替アウトバウンドプロキシサーバ
- プロキシサーバおよび非プロキシサーバからの IN ダイアログメッセージ。例 : [通話セッション (Call Session)] ダイアログおよび [サブスクライブ (Subscribe)] ダイアログ

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [システム (System)] を選択します。

ステップ2 [システム設定 (System Configuration)] セクションで、[システム設定](#)での説明に従って [非プロキシSIPのブロック (Block Nonproxy SIP)] フィールドを設定します。

ステップ3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

プライバシーヘッダーの設定

SIPメッセージのユーザプライバシーヘッダーにより、信頼されたネットワークからのユーザプライバシーのニーズが設定されます。

ユーザプライバシーヘッダーの値は、電話機の Web ページを使用して、回線の内線番号ごとに設定できます。

プライバシーヘッダーのオプションを次に示します。

- [無効(Disabled)] (デフォルト)
- none : ユーザは、プライバシーサービスがこの SIP メッセージにプライバシー機能を適用しないように要求します。
- header : ユーザは識別情報を削除できないヘッダーを隠すためにプライバシーサービスを必要とします。
- session : ユーザは、プライバシーサービスがこのセッションに匿名性を提供するように要求します。
- user : ユーザは、仲介者によってのみプライバシー レベルを要求します。
- id : ユーザは IP アドレスまたはホスト名を明らかにしない ID を代わりに使用するようシステムに要求します。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機の Web ページへのアクセス](#)を参照してください。

手順

ステップ1 [音声 (Voice)] > [内線 (Extension)] を選択します。

ステップ2 [SIP設定 (SIP Settings)] セクションで、[SIP の設定 \(SIP Settings\)](#) の説明に従って、[プライバシーヘッダー (Privacy Header)] を設定します。

ステップ3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

P-Early-Media サポートを有効にする

P-Early-Media ヘッダーが発信コールの SIP メッセージに含まれるかどうかを決定できます。P-Early-Media ヘッダーには、アーリーメディアストリームのステータスが含まれています。ネットワークが初期メディアストリームをブロックしていることをステータスが示している場合、電話機はローカルのリングバックトーンを再生します。それ以外の場合、電話は、通話が接続されるのを待っている間、早期のメディアを再生します。

始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [音声 (Voice)] [内線 (Ext)] を選択します。
- ステップ 2 [SIP 設定 (SIP Settings)] セクションで、[SIP の設定 \(SIP Settings\)](#) の説明に従って **P-Early-Media サポート** フィールドを設定します。
- ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

Peer Firmware Sharing

ピアファームウェア共有 (PFS) は、複数の電話機を一括にアップグレードする必要がある場合に、Cisco IP フォンがサブネット上で同じモデルまたはシリーズの他の電話機を検出し、最新のファームウェア ファイルを共有できるようにするファームウェア配信モデルです。PFS は、Cisco 独自のプロトコルである Cisco Peer-to-Peer-Distribution Protocol (CPPDP) を使用します。CPPDP により、サブネット上のすべてのデバイスがピアツーピア階層を構成し、ファームウェアまたはその他のファイルをピアデバイスから隣接デバイスにコピーします。ファームウェアのアップグレードを最適化するため、ルート電話機はロードサーバからファームウェアイメージをダウンロードし、TCP 接続を使用してそのファームウェアをサブネット上の他の電話機に転送します。

ピア ファームウェア共有により、以下が実現します。

- 中央集中型リモートロードサーバへの TFTP 転送における輻輳が制限されます。
- ファームウェアのアップグレードを手動で制御する必要がありません。
- アップグレード時に多数のデバイスが同時にリセットされた場合の電話機のダウンタイムが削減されます。



- (注)
- 複数の電話機が同時にアップグレードされるように設定されていない場合は、ピアファームウェア共有は機能しません。Event:resync を指定した NOTIFY が送信されると、電話機で再同期が開始されます。アップグレードを開始するための設定が含まれている XML の例：
- ```
"Event:resync;profile="http://10.77.10.141/profile.xml"
```
- [ピアファームウェア共有ログサーバ (Peer Firmware Sharing Log server) ]に IP アドレスとポートを設定すると、PFS 固有のログが UDP メッセージとしてそのサーバに送信されます。この設定は、各電話で行う必要があります。その後、PFS に関連するトラブルシューティングでログメッセージを使用できます。

Peer\_Firmware\_Sharing\_Log\_Server には UDP リモート Syslog サーバのホスト名とポートを指定します。デフォルトでは、ポートはデフォルトの syslog 514 です。

例：

```
<Peer_Firmware_Sharing_Log_Server>192.168.5.5</ Peer_Firmware_Sharing_Log_Server>
```

この機能を使用する場合は、電話機で PFS を有効にします。

## ピアファームウェア共有の有効化

ピアファームウェア共有 (PFS) は、サブネット上で同じモデルまたはシリーズの他の電話機を検出し、更新されたファームウェアファイルを共有したい場合に有効にします。電話機は階層に編成され、その階層内の電話機の1つがルート電話機の役割を果たします。階層が編成されると、ルート電話機はロードサーバからファームウェアイメージをダウンロードし、そのファームウェアを階層内の他の電話機に転送します。

### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** [音声 (Voice) ] > [プロビジョニング (Provisioning) ] を選択します。
- ステップ 2** [ファームウェアのアップグレード (Firmware Upgrade) ] セクションで、 [ファームウェアアップグレード](#) の説明に従って、 [ピアファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing) ] フィールドと [ピアファームウェア共有ログサーバ (Peer Firmware Sharing Log Server) ] フィールドを設定します。
- ステップ 3** [すべての変更の送信 (Submit All Changes) ] をクリックします。



## [プロファイル認証 (Profile Authentication)]

プロファイル認証を使用すると、電話機ユーザはプロビジョニングプロファイルを電話機に再同期できます。認証情報は、電話機が再同期と config ファイルのダウンロードを初めて試行しているときに HTTP または HTTPS 401 認証エラーが発生した場合に必要です。この機能を有効にすると、以下の状況で**[プロファイル アカウント セットアップ (Profile Account Setup)]** 画面が電話機に表示されます。

- 電話機の再起動後のプロビジョニング中に HTTP または HTTPS 401 認証エラーが発生した場合
- プロファイルアカウントのユーザ名とパスワードが空の場合
- プロファイルルールにユーザ名とパスワードがない場合

プロファイルアカウントの設定画面が見逃されたり無視されたりする場合は、電話スクリーンメニューからセットアップ画面にアクセスすることも、また電話機に回線が登録されていない場合にのみ表示される、**セットアップソフトキー**からアクセスすることもできます。

この機能を無効にすると、**[プロファイル アカウント セットアップ (Profile Account Setup)]** 画面は電話機に表示されません。

**[プロファイル ルール (Profile Rule)]** フィールドのユーザ名とパスワードには、プロファイルアカウントよりも高い優先順位があります。

- ユーザ名とパスワードなしで正しい URL を **[プロファイル ルール (Profile Rule)]** フィールドに指定すると、電話機はプロファイルを再同期するために認証またはダイジェストを要求します。正しいプロファイルアカウントを使用すると、認証はパスします。誤ったプロファイルアカウントでの認証は失敗します。
- 正しいユーザ名とパスワードで正しい URL を **[プロファイル ルール (Profile Rule)]** フィールドに指定すると、電話機はプロファイルを再同期するために認証またはダイジェストを要求します。プロファイルアカウントは電話機の再同期には使用されません。サインインは成功します。
- 誤ったユーザ名とパスワードで正しい URL を **[プロファイル ルール (Profile Rule)]** フィールドに指定すると、電話機はプロファイルを再同期するために認証またはダイジェストを要求します。プロファイルアカウントは、電話の再同期には使用されません。サインインは必ず失敗します。
- 誤った URL を **[プロファイル ルール (Profile Rule)]** フィールドに指定すると、サインインは必ず失敗します。

## [プロファイル認証タイプ (Profile Authentication Type)] を指定する

電話管理 Web ページからプロファイル認証タイプを指定できます。

プログラム可能なソフトキー [無視 (Ignore)] を追加して着信コールをサイレント状態にする

#### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

#### 手順

- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [プロビジョニング (Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2 [設定プロファイル (Configuration Profile)] セクションで、設定プロファイルに記載されているとおりに [プロファイルアカウント有効 (Profile Account Enable)] パラメータを設定します。
- ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

## プログラム可能なソフトキー [無視 (Ignore)] を追加して着信コールをサイレント状態にする

[無視 (Ignore)] ソフトキーを電話機に追加できます。ユーザは、忙しいときや邪魔されたくないときにこのソフトキーを押して着信コールをサイレント状態にできます。ユーザがこのソフトキーを押すと電話は鳴らなくなりますが、視覚的なアラートが表示されるので、電話のコールに応答することはできます。

#### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

#### 手順

- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 [プログラム可能なソフトキー (Programmable Softkeys)] セクションで、[プログラム可能なソフトキー有効 (Programmable Softkey Enable)] を [はい (Yes)] に設定します。
- ステップ 3 [着信キー一覧 (Ring Key List)] フィールドに次の値を入力します。  
`answer|1;ignore|2;ignoresilent|3;`
- ステップ 4 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

## BroadWorks Anywhere を有効にする

電話機は、あるデスク フォン（場所）から別の携帯電話またはデスク フォン（場所）にコールをシームレスに移動させられるように設定できます。

この機能を有効にすると、[Anywhere] メニューが電話画面に追加されます。ユーザはこのメニューを使用して、複数の電話を場所として内線に追加できます。その内線に着信コールがあった場合、追加されたすべての電話が鳴り、ユーザはどの場所からでも着信コールに応答できます。場所リストも BroadWorks XSI サーバに保存されます。

### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** [音声 (Voice)] > [内線 (n) (Ext(n))] を選択します。

**ステップ 2** [XSI 回線サービス (XSI Line Service)] セクションで、[XSI 回線サービス](#)の説明に従って、[XSI ホストサーバ (XSI Host Server)]、[XSI 認証タイプ (XSI Authentication Type)]、[ログインユーザ ID (Login User ID)]、[ログインパスワード (Login Password)]、および [Anywhere 対応 (Anywhere Enable)] フィールドを設定します。

[XSI 認証タイプ (XSI Authentication Type)] に [SIP クレデンシャル (SIP Credentials)] を選択した場合、[サブスクライバ情報 (Subscriber Information)] セクションにサブスクライバの [認証 ID (Auth ID)] および [パスワード (Password)] を入力する必要があります。

**ステップ 3** [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

## 発信者 ID ブロック機能の電話機と BroadWorks XSI サーバとの同期

電話機の [発信者IDのブロック (Block caller id)] ステータスは、BroadWorks XSI サーバ上の [回線IDのブロック (Line ID Blocking)] ステータスと同期できます。同期を有効にすると、ユーザが [発信者IDのブロック (Block caller id)] 設定で加えた変更により、BroadWorks サーバの設定も変更されます。

### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [内線 (n) (Ext(n))] を選択します。
  - ステップ 2 [XSI 回線サービス (XSI Line Service)] セクションで、[XSI 回線サービス](#) での説明に従って [CID のブロックの有効化 (Block CID Enable)] フィールドを設定します。
  - ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
- 

# 回線の BroadWorks XSI 通話履歴の表示の有効化

BroadWorks サーバまたはローカル電話のいずれかからの最近の通話履歴を表示するように電話機を設定できます。この機能を有効にすると、[通話履歴 (Recent)] 画面には [次からの通話履歴を表示 (Display recents from)] メニューが表示され、ユーザは XSI 通話履歴またはローカル通話履歴を選択できます。

## 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機の Web ページへのアクセス](#)を参照してください。

## 手順

- 
- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [電話 (Phone)] を選択します。
  - ステップ 2 [XSI 電話サービス (XSI Phone Service)] セクションで、[XSI 電話サービス](#) の説明に従って、[XSI ホストサーバ (XSI Host Server)]、[XSI 認証タイプ (XSI Authentication Type)]、[ログインユーザ ID (Login User ID)]、[ログインパスワード (Login Password)]、および [ディレクトリ対応 (Directory Enable)] フィールドを設定します。  
  
[XSI 認証タイプ (XSI Authentication Type)] に [SIP クレデンシャル (SIP Credentials)] を選択した場合、このセクションに [SIP 認証 ID (Sip Auth ID)] および [SIP パスワード (SIP Password)] を入力する必要があります。
  - ステップ 3 [XSI 電話サービス](#) の説明に従って、[CallLog 関連回線 (CallLog Associated Line)] および [次からの通話履歴を表示 (Display Recents From)] フィールドを設定します。  
  
(注) [CallLog の有効化 (CallLog Enable)] フィールドの値を [いいえ (No)] に設定すると、[次からの通話履歴を表示 (Display Recents from)] メニューは [通話履歴 (Recents)] 電話画面に表示されなくなります。
  - ステップ 4 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
-

## DND とコール転送ステータスの同期

電話管理 Web ページで設定を構成して、電話とサーバ間でのステータス（DND）同期および着信転送を有効にできます。



機能のステータスを同期させる方法は 2 つあります。

- 機能キー同期（FKS）
- XSI 同期

FKS は SIP メッセージを使用して機能のステータスを伝達します。XSI 同期は HTTP メッセージを使用します。FKS と XSI の両方の同期が有効になっている場合、FKS は XSI 同期よりも優先されます。FKS が XSI 同期とどのように相互作用するかについては、下の表を参照してください。

表 2: FKS と XSI 同期の間の相互作用

| [機能キーの同期 (Feature Key Sync) ] | DND が有効 | CFWD が有効 | DND 同期    | CFWD 同期   |
|-------------------------------|---------|----------|-----------|-----------|
| Yes                           | Yes     | Yes      | はい (SIP)  | はい (SIP)  |
| Yes                           | 不可      | 不可       | はい (SIP)  | はい (SIP)  |
| はい                            | 不可      | はい       | はい (SIP)  | はい (SIP)  |
| はい                            | 不可      | 不可       | はい (SIP)  | はい (SIP)  |
| 不可                            | はい      | はい       | はい (HTTP) | はい (HTTP) |
| 不可                            | 不可      | はい       | 不可        | はい (HTTP) |
| 不可                            | はい      | 不可       | はい (HTTP) | 不可        |
| 不可                            | 不可      | 不可       | 不可        | 不可        |

回線キーに FKS または XSI 同期が設定されており、さらに DND またはコール転送機能も有効になっている場合、それぞれの DND  アイコンまたはコール転送  アイコンが回線キー ラベルの隣に表示されます。回線キーに不在着信、ボイスメッセージ、緊急ボイスメールアラートがあると、アラート通知とともに DND アイコンまたはコール転送アイコンも表示されます。

### 関連トピック

[\[機能キーの同期 \(Feature Key Sync\) \]を有効にする](#) (46 ページ)

[XSI サービスによる自動転送ステータス同期を有効にする](#) (46 ページ)

[XSI サービスを介して DND ステータス同期を有効にする](#) (47 ページ)

## [機能キーの同期 (Feature Key Sync) ]を有効にする

Feature Key Synchronization (FKS;機能キー同期) を有効にすると、着信転送の設定とサーバ上の邪魔しない (DND) が電話機に同期されます。電話機で行われた DND および着信転送の設定の変更も、サーバと同期されます。

### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。

### 手順

- ステップ 1 [音声 (Voice) ] > [内線[n] (Ext [n]) ] を選択します。ここで、[n] は内線番号です。
- ステップ 2 [コール機能の設定 (Call Feature Settings) ] セクションで、[機能キー同期 (Feature Key Sync) ] フィールドを [はい (Yes) ] に設定します。
- ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes) ] をクリックします。

### 関連トピック

[DND とコール転送ステータスの同期 \(45 ページ\)](#)

[XSI サービスによる自動転送ステータス同期を有効にする \(46 ページ\)](#)

[XSI サービスを介して DND ステータス同期を有効にする \(47 ページ\)](#)

## XSI サービスによる自動転送ステータス同期を有効にする

着信転送の同期が有効になっていると、サーバ上の着信転送に関連する設定が電話機に同期されます。電話機で行われた自動転送設定の変更もサーバと同期されます。



- (注) 転送転送の XSI 同期が有効になっていて、XSI ホストサーバまたは XSI アカウントが正しく設定されていない場合、電話ユーザはその電話で通話を転送できません。

### 始める前に

- 電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の Web ページへのアクセスを参照してください。
- XSI ホストサーバとそれに対応する資格情報を設定します。音声 > Ext (n) タブ。
  - XSI サーバ認証にログイン認証情報を使用する場合は、XSI ホストサーバ、ログインユーザ ID、およびログインパスワードを XSI 回線サービスセクションに入力します。

- XSI サーバ認証に SIP 認証情報を使用する場合は、XSI ホストサーバおよびログインユーザ ID を XSI 回線サービスに、認証 ID およびパスワードを加入者情報セクションに入力します。
- 音声 > Ext (n) から通話転送設定セクションにある機能キー同期 (FKS) を無効にします。

#### 手順

- ステップ 1 [音声 (Voice)] > [内線[n] (Ext [n])] を選択します。ここで、[n] は内線番号です。
- ステップ 2 CFWD 有効フィールドをはいに設定します。
- ステップ 3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。

#### 関連トピック

[DND とコール転送ステータスの同期 \(45 ページ\)](#)

[\[機能キーの同期 \(Feature Key Sync\)\] を有効にする \(46 ページ\)](#)

## XSI サービスを介して DND ステータス同期を有効にする

邪魔しない (DND) 同期が有効になっている場合、サーバの DND 設定は電話機に同期されます。電話機で行われた DND 設定の変更もサーバに同期されます。



- (注) DND の XSI 同期が有効になっていて、XSI ホストサーバまたは XSI アカウントが正しく設定されていないと、電話機ユーザは電話機の DND モードをオンにできません。

#### 始める前に

- 電話管理の Web ページにアクセスします。電話機の [Web ページへのアクセス](#) を参照してください。
- XSI ホストサーバとそれに対応する資格情報を設定します。音声 > Ext (n) タブ。
  - XSI サーバ認証にログイン認証情報を使用する場合は、XSI ホストサーバ、ログインユーザ ID、およびログインパスワードを XSI 回線サービスセクションに入力します。
  - XSI サーバ認証に SIP 認証情報を使用する場合は、XSI ホストサーバおよびログインユーザ ID を XSI 回線サービスに、認証 ID およびパスワードを加入者情報セクションに入力します。
- 音声 > Ext (n) から通話転送設定セクションにある機能キー同期 (FKS) を無効にします。

## 手順

---

- ステップ1 [音声 (Voice)] > [内線[n] (Ext [n])] を選択します。ここで、[n] は内線番号です。
  - ステップ2 DND 有効フィールドをはいに設定します。
  - ステップ3 [すべての変更の送信 (Submit All Changes)] をクリックします。
- 

## 関連トピック

[DND とコール転送ステータスの同期 \(45 ページ\)](#)

[\[機能キーの同期 \(Feature Key Sync\)\] を有効にする \(46 ページ\)](#)

# パケットのキャプチャ

## 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話機の Web ページへのアクセス](#) を参照してください。

## 手順

---

- ステップ1 [情報 (Info)] > [デバッグ情報 (Debug Info)] を選択します。
  - ステップ2 [問題レポートツール (Problem Report Tool)] セクションで、[パケットキャプチャ (Packet Capture)] フィールドの [パケットキャプチャの開始 (Start Packet Capture)] ボタンをクリックします。
  - ステップ3 電話機が受信するすべてのパケットをキャプチャするには [すべて (All)] を、送信元または宛先が電話機の IP アドレスであるパケットのみをキャプチャするには [ホスト IP アドレス (Host IP Address)] を選択します。
  - ステップ4 選択した電話機から電話を発信または受信します。
  - ステップ5 パケットのキャプチャを停止するには、[パケットキャプチャの停止 (Stop Packet Capture)] をクリックします。
  - ステップ6 [送信] をクリックします。  
[ファイルにキャプチャ (Capture File)] フィールドにファイルが表示されます。このファイルにはフィルタされたパケットが含まれています。
- 

# Web UI ボタンを使用した電話機の初期設定へのリセット

電話機の Web ページから電話機を初期設定にリセットすることができます。リセットは電話機がアイドル状態の場合にのみ発生します。電話機がアイドル状態でない場合は、話し中であ



ることと、もう一度やり直す必要があることを示すメッセージが電話機の Web ページに表示されます。

#### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機の Web ページへのアクセス](#)を参照してください。

#### 手順

- 
- ステップ 1 [管理者ログイン (Admin Login)] > [詳細 (advanced)] > [情報 (Info)] > [デバッグ情報 (Debug Info)] を選択します。
  - ステップ 2 [初期設定へのリセット (Factory Reset)] セクションで、[初期設定へのリセット (Factory Reset)] をクリックします。
  - ステップ 3 [初期設定へのリセットの確認 (Confirm Factory Reset)] をクリックします。
-

Web UI ボタンを使用した電話機の初期設定へのリセット